

学びの創造

★第19回教育実践セミナーを開催しました



第19回教育実践セミナーを12月4日土曜日、「現代の子どもを取り巻く問題とその理解」というテーマで開催しました。

セミナーは2部構成により行われ、前半は今年センターに着任した宮野素子准教授が、「現代の思春期・青年期心性の理解：ユング心理学の視点から」という演題で講演を行いました。宮野准教授はユング派分析家の立場から、思春期・青年期の心性についてなまはげの話などを織り込みながら解説しました。

後半は、思春期危機の事例に関する事例検討が行われました。

明德館高等学校定時制教頭で教育専門監もなされている松井克彦先生が事例を提供し、その事例について参加者全員で検討を行いました。その後、本センターの3人の教員がそれぞれの見立てと関わり方についてそれぞれの立場から報告しました。

開催日当日は、初冬特有の強風が吹き荒れるあいにくの天気でしたが、50名を超える方々の参加をいただくことができました。その内容からでしょうか、今回は教員の参加者に加え、スクールカウンセラーや臨床心理士など心理臨床の現場に関わる方々の参加が多くみられました。



★11月～12月に教職実践演習を試行しました



2010年度の大学入学者から教員職員免許法が変わり、「教職実践演習」という新しい必修科目が加わりました。大学4年の後期に、教員免許を取得するにふさわしい資質・力量を備えているかどうかを大学としてチェックし、教員養成の総仕上げをするというものです。3年後の本格実施に向けて今年は、来年4月から先生になる人を対象として授業を行いました。卒業研究が佳境を迎えるとても忙しい時期ではありましたが、19人が毎週水曜日と土曜日の授業に参加しました。

今年の4月から学校で働いている先輩から話を聞いたり、教育

実習ではなかなか関わることのない、保護者との上手な付き合い方や校務分掌について考えたりと、来年の自分の姿を想像しながら、真剣に学んでいました。初めての試みということもあり、改善すべき点も多くありますが、3年後に向けてよりよい内容と体制を作っていきたいと考えています。

今回は教師になる19名が対象でしたが、3年後からは免許を取得する学生約160人全員が対象となります。一般企業への就職が決まり、免許はとるけど教師にならない学生も含まれます。多様な学生を対象として、どのような授業を行うか試行錯誤が続きます。

